

■新聞スクラップ方法学ぶ



夏休みの自由研究に新聞をスクラップしよう。大田原市の東北体育館で6日、「新聞スクラップ講習会」があった。小学生の親子連れらが新聞記事のスクラップ方法を学んだ。

朝日新聞の野田新聞店などが主催した。大田原、那須塩原市などから親子連れ28組65人が参加。全国新聞教育研究協議会の講師が新聞の読み方とスクラップの注意点を紹介。①記事を読み、ラインを引く②マーカーで記事を書く③記事を切る④記事を貼る⑤日付、要約、感想を書く⑥などの手順通りに記事をスクラップした。

那須塩原市立東小5年の瀬戸陽菜さん、2年の結菜さん姉妹を見守った母親の佳奈子さん(42)は「ふだん、新聞を自分から開くことはないが、尋ねられると一生懸命に探す。今後は自ら探さないとダメだ」と話した。

ASA大田原
・西那須野

新聞スクラップ講習会

親子約50組「活字」に親しむ

ASA真岡

2020年度の教育改革の焦点の一つ「読解力を養う新聞の活用」が注目を集めている。6日、ASA(朝日新聞販売所)大田原・西那須野(野田力所長)、真岡東部(西部(斎藤和生所長)などが主催する「新聞スクラップ講習会」が県内2カ所で開

かれた。小学生とその保護者らが参加し、新聞の見方やスクラップの要点などを学んだ。

原市の県立東北体育館研修室で開催。2回目の今回は小学生とその保護者ら28組65人が参加した。

講師は、都内の現役中学校教諭で全国新聞教育研究協議会事務局次長の香山昌彦さんと小学校教諭の高田一輝さん。午前の部は、大田

見出し、特集などを取り上げた新聞の解説から始まり、「テーマを決める」「記事を探す」「記事を切り抜く」「要約、感想を書く」などスクラップのポイントを学んだ子供たちは、朝日新聞や朝日小学生新聞を使いスクラップ帳作りを行った。

講師2人は「教育改革では読解力を問う問題が増える。読解力を養うには新聞などの活字に慣れておくことが大切」と説明。

しかった。来年も参加したい。母理津子さんは「言葉の意味や地名を調べるなど教材としての新聞の活用方法も聴けて良かった」と笑顔で話した。

16回目となる午後の部の真岡では真岡市公民館に19組45人が参加。高田教諭は、夏休みの宿題にもなる新聞スクラップの利点を分かりやすく解説。「世の中の出来事に関心を持って毎日、新聞を読み、言葉の意味を辞書で調べれば語彙が増え、読解力が増す。文章を書くテクニックも身に付く」と話した。

「看護師が夢」と笑顔で話した真岡小4年の早乙女ゆういさんは、最初に小学生新聞のトップ記事「厚労省がエボラウイルスの輸入を決める」を取り上げた。

両参加者は約1週間無料で宅配される新聞でスクラップ帳作りに挑戦する。



▲ASA大田原・西那須野 ▼ASA真岡



那須塩原市の大山小3年井形元基君は一乗